

国際融合文化学会

International Society for Harmony & Combination of Cultures

ISHCC ニュースレター 第10号 (2004.10.10)

モットー：全ての生あるものがその「生」を享受し全うしうる調和を創造すること

国際融合文化学会 (ISHCC) 主催 『英語能・ハムレット』

軽井沢公演のご報告

8月8日(日) 軽井沢日大研修所において『英語能・ハムレット』リハーサル公演が上演されました。ご多忙の中、国際融合文化学会名誉会長、瀬在幸安日本大学総長にご来場いただきました。詳細につきましては次号でご報告いたしますが、その時の様子を写真でご紹介いたします。



『英語能・ハムレット』in 熱海 リハーサル公演のご案内

11月12日(金)午後2時より熱海MOA美術館能舞台において『英語能・ハムレット』リハーサル公演を行います。入場無料(要入館料)となっておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。公演終了後、自然農法産農産物を使用した懐石料理で有名な瑞雲会館で懇親会を予定しておりますので、どうぞご参加下さい。

公演、懇親会についてのお問い合わせは安田事務局長代行 2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp までお願いします。

MOA 美術館 <http://www.moaart.or.jp/>

瑞雲会館 <http://www.moaart.or.jp/zuiunn/index.html>

『英語能・ハムレット』堺公演中止のご案内

11月13日(土)に堺能楽会館で予定しておりました公演は、都合により中止することになりました。

日本語『能・ハムレット』公演のご案内

12月2日(木)午後7時より「日本大学学術研究助成」による、日本語『能・ハムレット』(上田邦義作) 共同演出：観世栄夫・梅若万三郎・上田邦義、囃子統括：大倉正之助、地謡節付け：八田達弥、を日本大学カザルスホールにて上演いたします。 http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/NOHHAMLET_J.htm

入場ご希望の会員の皆様には入場券を郵送させていただきますので、安田事務局長代行までメールにてご連絡いただけますようお願いいたします。 2001c17@gssc.nihon-u.ac.jp

上田邦義国際融合文化学会会長による公開講座のご案内

下記の要領で、英語能の謡いを体験する公開講座が開かれます。お誘いあわせの上、奮ってご参加下さい。

日本大学秋期公開講座

「シェイクスピア in 『能』スタイル」 5回シリーズ

日時：11/1, 8, 15, 29, 12/6 (月) 午後2時~3時半

講師：上田邦義

場所：日本大学・ミネルヴァホール(水道橋)

「能・ハムレット」12/2に無料招待

<問い合わせ・申し込み先> 「日本大学総合生涯学習センター」

【URL】<http://www.nihon-u.ac.jp/shougai/>

【TEL】03-5275-8888

シェイクスピア in 「能」スタイル ～英語の謡いをご一緒に～

時 間： 午後 2 時～午後 3 時 30 分
回 数： 5 回
受講料： 一般:10,000 円、日本大学在学学生:5,000 円
会 場： ミネルヴァホール(日本大学通信教育部教育部本館6階)
定 員： 50 名
テキスト： 資料を配布

※11 月 22 日(月)の講座はございません。

更に詳しくは、リンク先：

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ueda/> (上田会長ホームページ)の「公演のご案内」の中の「公開講座のご案内」をご覧ください。

【講座の趣旨】

仏教や神道を背景にもち「悟り」や「救い」を暗示する能が、ヘレニズムやヘブライズムを背景とする人間主義のシェイクスピア劇に溶け込むとき、遠く離れた二つの文化が生み育ててきた芸術の魂が融合します。「生か死か、それが最大の問題」であるシェイクスピアの世界が、「生死はもはや問題ではない」能の世界へ昇華されます。

日本文化研究者として著名な批評家ドナルド・リッチー氏は、『英語能・ハムレット』を観て、『能・ハムレット』は、禅とシェイクスピアの見事な融合です。」と『ジャパン・タイムズ』紙で評し、またシェイクスピア能でオフィーリアを演じた宮西ナオ子さんは、「頭で学ぶ時代は終わった。体得する時代の始まり。シェイクスピア能は癒しの体験・悟りの体験であり、アンチ・エイジング体験でもありました。」と感想を述べています。

東西の代表的な古典芸能の融合体験である「シェイクスピア能」。そんな英語謡曲をあなたも謡ってみませんか。

フランス留学中の菊地善太氏から寄せられたエッセイ

フランス留学中の菊地善太氏(事務局長)よりリヨン便りが寄せられました。

リヨン便り ～「国際化」と「外国人」～

2004年9月 菊地善太

私が平成十六年度日仏共同博士課程の派遣留学生として渡仏して、早くも3週間が過ぎました。パリはいざ知らず、ここリヨンの感想は、一言で言えばフランス語の国。空港も駅も街も大学も、どこにいてもフランス語一色で、日本語はもとより英語の案内すら蚊帳の外。英語で尋ねても、ちょっと込み入ったことになるとフランス語になって返ってきます。これではお隣の英国人やドイツ人の観光客も困ってしまうのではと思うくらい。

言葉の壁という意味では、日本も負けず劣らず外国人泣かせの国だと思うのですが、日本とフランスではその障壁の種類が違うようです。こちらに来て、日本では当たり前のように感じられた「国際化」とか「日本人、外国人」とかいう意識が、ここリヨンでは感じられないことに気づきました。

日本では、「国際化」という掛け声のもと、お役所でも駅でも英語の案内やパンフレットをよく見かけます。新幹線などでも英語のメッセージを流します。しかしこちらでは、全てがフランス語のみです。外国語の案内を増やそうという努力は全くなされていないのではないのでしょうか？ 少なくともこれまで私が訪れた範囲では、そういうものは微塵も見かけられませんでした。フランス人にとって国際化とはなんなのか、何かとても興味がわいてきます。

もうひとつ、「外国人」という意識も、こちらでは感じられなくなりました。フランスには色々な人種の人がいるので、誰がフランス人で誰が外国人なのか、私には見た目ではまだ全然区別が付きません。区別がつかないのは私だけではないのか、私にフランス語で道を聞いてきた人も、これまでに何人もいます。誰にでも当たり前のようにフランス語で話しかける人達の中にいると、この社会はフランス人のための社会というわけではなくて、ただフランス語を話す人のための社会なのかと思えてきます。

ここで、外国語しか話せないというのは不自由なことではあるのですが、それで差別を受けているとは感じられません。英語で話しかければ、皆、使える範囲の英語で、或いはフランス語で答えてくれます。ただ、無視はされていないけれども、ここでは（誰でも外国人であっても）フランス語を使うのが当たり前という意識が感じられます。日本人は、外国人に対しては、少しでも彼らが理解しやすいようにと、とにかく英語やその他の外国語のメッセージを用意しようとはしますが、そういう意識は特別なのでしょうか？

日本では国際語イコール英語と考える人が多いですが、ことフランスではフランス語です。国際社会で活躍するため国を挙げて外国語学習に取り組む日本と比較して、頑なにフランス語の社会を守りつつも国際的な大国として君臨するフランスの姿は非常に興味深く、改めてこの国の在り方というものに関心を持ちました。リヨン滞在を通して、彼らの国際化の意識について、少しでも理解が深まればいいなと思います。

以上、リヨンからの報告です。

9月23日 リヨン第3大学キャンパス



マーカス・グランドン氏から寄せられたエッセイ

夏にハワイに滞在されたマーカス・グランドン氏(副会長)からエッセイが寄せられました。

Live Aloha

by

Marcus Grandon

Aloha.

I have been thinking about “aloha” lately. This past summer I spent a lot of time in Hawaii. Mostly busy working, the wonderful thing about being in Hawaii is that you can go to the beach on the weekends, and it is only a short drive.

Hawaii has many things to offer the world besides the natural beauty of its desert (yes, desert!), rain forests, and beaches. Since it was largely undiscovered by the world until only a few hundred years ago, Hawaii had a unique culture of its own. Things like hula, Hawaiian shirts, luau, and surfing are just a part of the artistic development that Hawaiians have brought to the cultural table.

One cultural idea that most of the world does not know about is the concept of “aloha”. Interestingly, most people in the world have heard the word aloha, and have even spoken it. The basic meaning of aloha is “hello”, and it is also used to say “good-bye”, therefore, in its most rudimentary form, it is used for greeting and parting. In Hawaii, you hear the word all of the time.

After staying in Hawaii for more than the usual 5 days that the average tourist spends there, I discovered something new about the word “aloha”. On a deeper level, aloha actually means “love”. At first, I thought, well isn't that nice! It is another word for “love”, but as I thought about it more, it occurred to me that there was much more to this.

Thinking conceptually, every time you meet someone, and say “aloha”, you are saying “I love you”. You are not only giving love to that person, but you are creating it, and they are giving it back to you. As you walk into a room, you bring love with you, and as you leave a group of people, you leave some of your love. It means that everywhere you go, you bring love, enter into a place where there is love, and leave more love when you part, but you also get love at that time. Everywhere you go there is love, and you continually create more. What a wonderful idea!

Upon further study in Hawaii, “aloha” has an even deeper meaning. It is actually an entire way of life, the highest aesthetic of conducting yourself in the world. People in Hawaii often talk of “aloha” as a way of life. It resembles a code for living. For example, there are stickers on cars that read “Live Aloha”, which indicates that one should live their lives in accordance with principles of “aloha”. These nearly religious principles include such things as respect for all people, respect for all living creatures, and respect for nature. It seems to mean that one should live in harmony with everything in the world. Perhaps the Japanese concept of “Wa” is close to the Hawaiian idea of “Aloha”.

Related to “Aloha” is the word “Mana”. The word “Mana” roughly means spiritual energy, or life energy. . The Japanese word “Ki” looks to have about the same meaning. “Mana” is a word used in many parts of the world, from India to Israel, to the islands of the pacific. How did this word find its way from India to Hawaii?. Wherever the word “Mana” is used, it usually has a major relationship to the concept of the energy of life. “Aloha” is filled with “Mana”.

All of this sounds very beautiful in theory. When people practice “aloha”, it is truly a wonderful thing. Unfortunately, the world is not a perfect place. The concept of “aloha” is not always used by the people of Hawaii or by many people in the world. Even today, in the paradise that is Hawaii, Non-Hawaiians or “haoles” are not treated with aloha at all. There are still xenophobic people in Hawaii. This hatred runs so deeply that sometimes travelers are beaten and nearly killed by Hawaiians for no reason. Recently, my friend, a 55 year old man living in Hawaii from California was nearly murdered by a group of young Hawaiians. He was at work in Wailuku, Maui installing air conditioners when he was attacked by 4 people. They hit him repeatedly with a lead pipe, even while he was lying on the ground bleeding from head wounds. In his words, “They were not only trying to hurt me, they were trying to kill me. They kept hitting and kicking me even when I was down.”

There are words in various languages that are bad for the world. Words like “haole” (Hawaiian), “foreigner”(English), “gaijin”(Japanese), “farang”(Thai), all have the same negative meaning and are terrible for the world. In the future, I hope and pray that human beings stop using these words. In my dream world, these words become an archaic thing of the past, used by people in a less conscious society.

Since all people of the world are one, why do we use words to make us separate? This kind of thinking adds to hatred. It is like the question, “Where are you from?”. This question has a deeper meaning that means you are a foreigner, not from the same place as me. The great philosopher Socrates recognized this, and when he was asked this question, he replied, “I am from the universe”. I wish people would stop using this question.

I want to live in a world without borders, without passports, and without derogatory words like “haole”, “gaijin”, “farang”, and “foreigner”.

Aloha.

役員人事のご案内（安田保事務局長代行より）

2004 年度役員名簿を学会 HP(ホームページ)にて公開しております。

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/staff2004.htm>

今回の人事で、副会長に片山博氏、会計監査役に渡辺直氏に就任していただきました。

菊地善太事務局長が、9月よりフランスに留学されましたので、安田保が事務局長代行、島崎浩氏が事務局長代行代理を務めることになり、畑江美佳、若尾明余両氏に会計委員に加わっていただきました。

ホームページのご案内

事務局の竹村茂さんが作成・運営して下さっている当会のホームページも是非ご覧ください。

(<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/index.html>)

ホームページ運営スタッフ募集のお知らせ

当会のホームページは事務局の竹村茂氏に作成・運営していただいておりますが、現在、ホームページにおいて会員の皆様の情報を交換する掲示板の設置を進めております。それに伴い、ホームページの運営を手伝っていただけるスタッフを募集しております。どうぞご協力いただけますようお願いいたします。

『融合文化研究』への寄稿募集

皆様からの学会誌『融合文化研究』への寄稿もお待ちしております。なお、第4号分につきましては締め切りしました。次号(第5号)の締め切りは、来年1月末日の予定です。原稿提出の手順はHPをご参照下さい。

(<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/wanted4/index.htm>)

終身会員のご報告

2003 年度は下記の方々より終身会費をお振込みいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

星野裕子様、高木左右様、松添寛之様、渡辺治則様、深堀真理子様

【会費のご納入について】

ご協力いただける方は、下記の郵貯口座へのお振込みをお願い申し上げます。

口座番号：00120-1-550305 口座名義：ISHCC

年会費 一般会員：3,000 円、学生会員：2,000 円

或いは、終身会員：30,000 円（次年度以降、会費支払い免除）

2003 年度会計報告（安田保事務局長代行兼会計委員より）

別紙 2003 年度収支報告書をご確認いただけますようお願いいたします。収支報告は、当会監査役渡辺直氏により、詳細をチェックいただき、妥当と認められる会計処理により、適正に表示されていると承認をいただいております。

2003 年度会計報告

国際融合文化学会各位

下記に、2003 年度の国際融合文化学会の会計報告を致します。

2003年度 国際融合文化学会 収支報告

学会収入				
前期繰越金	¥713,317			
学会費	¥513,000			
		内訳	人数	金額
		終身会員費 ¥30,000	5	¥150,000
		年会費(繰越金含む)	51	¥155,000
		寄付金	2	¥80,000
		学会誌執筆者負担金	14	¥128,000
大会費	¥100,000			
		内訳	人数	金額
		10 月堺公演出演料 (堺能楽会館より受領)		¥100,000
収入合計	¥1,326,317			
学会支出				
大会費	¥302,261			
		内訳		金額
		4 月米沢公演		¥61,890
		10 月堺公演		¥189,371
		3 月東京大会		¥51,000
学会誌	¥174,152	印刷代、郵送料、他		¥174,152
諸経費	¥850	郵送料、他		¥850
来期繰越金	¥849,054	2004 年度への繰越金		¥849,054
支出合計	¥1,326,317			

以上の通り報告します。

2004 年 5 月 30 日

会計係

菊地善太

安田保

編集後記

今回は、各種ご案内・ご報告とともに、菊地事務局長とグランドン副会長によるエッセイをお届けいたします。いずれもまさに融合文化に直接関る深い内容です。次号以降、8月の軽井沢におけるシェイクスピア能公演の詳細の報告、イギリス便り等の掲載が予定されております。どうぞお楽しみに。

構成・内容等につきましてご意見がありましたらお寄せくださるようお願いいたします。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

『ニューズレター』第10号編集委員代表 島崎 浩・田口裕基